

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨調査報告

～収集支援 横浜市編～

9月に発生した「平成27年9月関東・東北豪雨」において多大な被害を受けた常総市に対して、横浜市と名古屋市から災害復旧支援隊が派遣され、災害廃棄物の収集支援が行われました。今回、我々は横浜市による収集支援の内容について、第一次派遣隊の副隊長をされた横浜市資源循環局家庭系対策部業務課の永田大介指導員にお話を伺うことができましたので、その内容についてご報告します。



第一次派遣隊副隊長 永田指導員

1 横浜市における収集支援の概要

横浜市の収集支援は、2期に分かれて実施。第一次派遣隊の支援期間は、9月28日（月）から10月4日（日）の7日間、第二次派遣隊の支援期間は、10月4日（日）から10月10日（土）の7日間で実施されました。

1.1 支援の規模（人的支援、機材等）

- 派遣隊は14人／隊。隊長（係長級）1人、副隊長（指導員級）1人、隊員12人の構成で支援活動を行った。
- 派遣車両は、圧縮板式の中型パッカー車が5台、小型無蓋車が2台の合計7台。



（写真は横浜市より提供）

- 1台あたり2人乗車の7班での対応とした。横浜市では、平時より2人乗車の体制により収集作業を実施している。
- 派遣隊の編成は、第一次派遣隊、第二次派遣隊とも同じ。派遣隊メンバーは一次二次を総入れ替えにて対応した。

1.2 支援の期間（派遣準備から終了まで）

- 9月18日の支援の打診を受けた当日に編成の検討を行っている。
- 支援要請の内示から第一次派遣隊が出発するまでの期間は10日間であった。

月	火	水	木	金	土	日
9/14	15	16	17	18 一次隊入選依頼	19	20
21	22	23	24	25 県から応援要請 一次隊派遣決定 二次隊入選依頼	26	27
28 一次隊出発	29	30 県から継続依頼 二次隊派遣決定	10/1	2	3	4 一次隊帰着 引き継ぎ 二次隊出発
5	6	7	8	9	10 二次隊帰着	11

1.3 支援・派遣に向けた準備

- 派遣するための事前の準備として、次のようなことが行われている。①派遣人員、車両の決定 ②「災害派遣等従事車両証明書」の交付申請 ③宿泊先の手配 ④前渡し金の支出 ⑤派遣者向け説明資料の作成 ⑥出発式の準備 等を行った。
- 支援の人員は、横浜市内に18ヶ所ある収集事務所において、第三次までの支援を想定し、1隊あたり6ヶ所を割り当てた。
- 宿泊先は支援元（横浜市）が手配を行っている。第一次派遣隊は下館市、第二次派遣隊はつくば市に宿泊した。第二次派遣隊の宿泊したつくば市から常総市へ向かう道路は、朝の渋滞が発生するエリアであった。宿泊先の選定では、そうしたことにも配慮する必要がある。
- 派遣車両への給油は、派遣先付近のガソリンスタンドでの現金給油としたため、前渡し金を準備した。

2 現地における収集支援の状況

派遣初日に集合場所の常総市役所に到着した際には、一見、通常の街並みでどこが被災しているのかという印象を受けたとのこと。翌日、常総市の職員に案内されて収集するエリアの確認を行うことから、支援作業がスタートしました。

2.1 横浜市の受けた作業指示内容等

- 常総市からの作業指示として、担当する収集範囲（第一次派遣隊：天満町、森下町 第二次派遣隊：石下地区）と常総市が把握しているごみ置き場の場所が示された。
- 災害ごみの分別としては、「可燃」「不燃」「混合ごみ」「粗大」に分け、「可燃」「不燃」「混合ごみ」は常総環境センター（守谷市野木崎）、「粗大」は常総市青少年の家（常総市大生郷町）に搬入とされた。
- 生活ごみの収集は支援外。（従来の委託業者が担当）
- 第一次派遣隊が担当する天満町と森下町では、平時は可燃ごみを赤色袋、不燃ごみを青色袋の分別となっているため、袋の色で分別収集を行った。



常総市水海道地区（含：天満町、森下町）指定ごみ袋

- 常総環境センターへの搬入は、「可燃」「不燃」に関しては、平時通りにピットに投入する。「混合ごみ」は特設ヤードへの排出とされた。

2.2 収集作業の実態

- 「可燃」「不燃」「混合ごみ」が混ざって排出されているごみを分けながらの収集作業に対応するため、ごみの種類ごとに車両を振り分け、4台1組のようにチームで分別収集を実施。



チームで収集を行うパッカー車（写真は横浜市より提供）

- 収集は、計画収集のようにルートを決めてそれに沿って収集するのではなく、道に排出されている廃棄物を順次終わらせていくというイメージで作業を進めた。また、収集する順序などは、横浜市の判断により決定していった。
- 現実には、災害廃棄物がどこに排出されているか常総市のほうでも把握しきれていなかった部分もあったため、横浜市として調査部隊を作って、受け持ちエリアをチェックし、地図に記載するなど状況を確認しながら、地図をコピーして情報共有して作業にあたった。
- 市民の災害廃棄物の排出は分別されない状態が多く、平時の袋の色分けによる分別ルールは守られていない。目視ですぐに分かるもの以外は、袋の色にかかわらず「混合ごみ」として収集せざるをえない状況であった。

2.3 支援実績

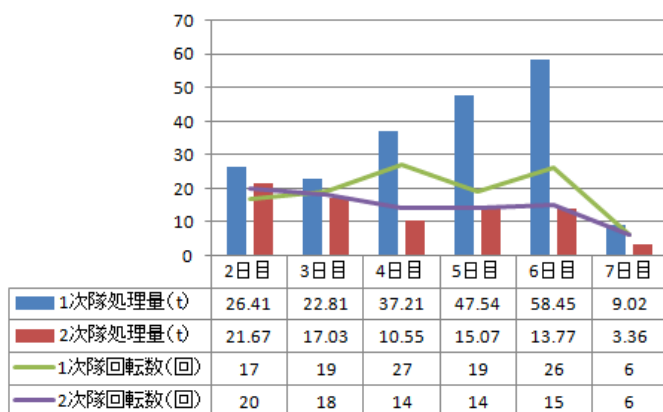
横浜市の収集支援の実績としては、第1次派遣隊が201.44トン、第二次派遣隊が81.45トンで合計282.89トンの収集支援を行った。第一次派遣隊と第二次派遣隊における処理量及び回転数の差は、担当した収集エリアと搬入施設との距離の影響が大きい。

表 第一次派遣隊実績（数値は横浜市より提供）

第一次派遣隊 収集総トン数					第一次派遣隊 収集総回転数				
品目	可燃	不燃	混合	粗大 粗大破 砕	品目	可燃	不燃	混合	粗大 粗大破 砕
重量	43.95t	5.42t	143.89t	8.18t	回転数	14回転	3回転	58回転	39回転
合計	201.44t				合計	114回転			

表 第一次派遣隊と第二次派遣隊の処理量及び回転数比較

（数値は横浜市より提供）



(google マップ)

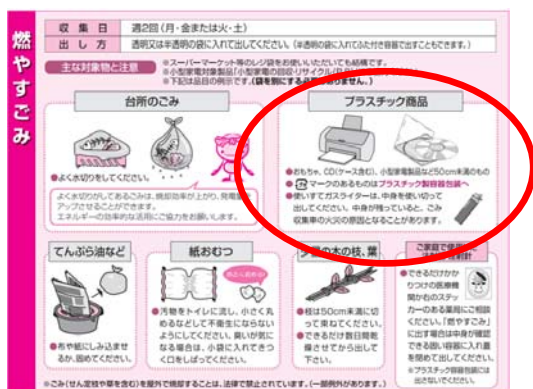
3 収集支援における課題

3.1 現地情報の把握が最大のポイント

- 収集支援を行うためには、「何を支援するのか」が明確になることが作業効率にもつながる。今回の対応では現場の混乱のために廃棄物がどこにあるのかという情報の把握が十分でなかった。そのため、収集支援のほかに現状把握の支援も行った。
- 現状把握の作業は、市民から受けた情報をもとに地図に廃棄物のある場所とおおよその量をプロットする作業になる。平時の業務で廃棄物を見ながら収集している職員ならば難しい業務ではない。
- ボランティアの活動が活発な休日を挟むと、前日に回収した場所へ大量に排出するなど道路への排出状況が大きく変化するため、収集の視点からも、ボランティアの把握も重要。

3.2 平時の業務との違いに注意

- 収集支援では、平時と違う分別で慣れない作業を行うという意味で注意が必要になる。現地での作業負担を少しでも下げるために、派遣前に支援先の分別ルール、道路などを把握していくことが大切である。



「ごみと資源物の分け方・出し方」(横浜市パンフレット)

※常総市では、プラスチック製品は含まれない。



「家庭ごみ分別の手引き」(常総市 HP)

- 横浜市の住宅密集地における収集作業者は、農薬などの取り扱いに慣れていない。危険物など何が入っているかわからない廃棄物に対しては、『プロ意識』を持って対応する必要がある。
- 水害の場合、水分を含んで重くなるので、平時の意識で積み込むと過積載の恐れがある。

4 災害廃棄物の収集支援を通して

- 今後、支援を行う場合のアドバイスとして、
 - ①地形、位置関係や分別方法など事前に確認できることは派遣前に把握。
 - ②現地での情報不足は当たり前という心構えを持つ。
 - ③必須アイテムはこれ。→ → → → → → → 「手かぎ」畳を運べます →
- 横浜市が受援される側になることを想定した場合、場所や状況が把握しやすい通常収集を支援にお願いし、地理が分かっている横浜市職員が災害廃棄物に対応するといった方針などが考えられる。



今回のインタビューでは、現地に赴いた永田指導員に丁寧に回答いただきました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

収集支援の心残りとして、「支援期間が終わった時点では収集が完了してない状態でもあり、平常に戻るまで、役に立つのであれば支援に行きたいという気持ちがある。」というコメントが印象的でした。